

(4)子育てしやすい環境づくりのための調査について

総合政策局 共生社会政策課

子育てしやすい環境づくりに向けて

- 令和5年12月22日に閣議決定された「こども未来戦略」や、令和7年6月6日に策定された「こどもまんなか実行計画」では、公共交通機関等において、「ベビーカー使用者のためのフリースペース等の設置や分かりやすい案内を促進すること」や、「妊産婦や乳幼児連れの方を含めた配慮が必要な方に対する利用者の理解協力を啓発すること」が位置付けられている。
- これを踏まえ、こども・子育て世帯が公共交通機関等を利用する際の課題、ニーズ及び利用実態の把握を行うとともに、**先進事例の調査等を実施すること**としている。

■こども未来戦略（令和5年12月22日閣議決定）（抄）

Ⅲ.「加速化プラン」～今後3年間の集中的な取組～

Ⅲ-1.「加速化プラン」において実施する具体的な施策

4. こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革

○ また、鉄道やバスなどにおけるベビーカー使用者のためのフリースペース等の設置や分かりやすい案内の促進とともに、公共交通機関等において、妊産婦や乳幼児連れの方を含め、配慮が必要な方に対する利用者の理解・協力を啓発する取組を推進する。

■こどもまんなか実行計画2025（令和7年6月6日決定）（抄）

第3章 こども施策を推進するために必要な事項

2 こども施策の共通の基盤となる取組

（5）こども・若者、子育てにやさしい社会づくりのための意識改革

こども連れの方が移動しやすい環境整備

○ 鉄道やバスなどにおけるベビーカー使用者のためのフリースペース等の設置や分かりやすい案内の促進とともに、公共交通機関等において、妊産婦や乳幼児連れの方を含め、配慮が必要な方に対する利用者の理解・協力を啓発する取組などを推進する。また、こども連れ旅行者に優しい旅行の機運醸成を図る。【国土交通省】

- 今後の取組の方針を検討するため、令和7年7月から8月にかけて、**子育て世代を対象に、公共交通機関等（鉄道・バス・タクシー・航空機・船舶）を利用する際の困りごとやニーズ等を把握するためのアンケート調査**を実施した。

調査の実施概要

○調査方法：インターネット調査

○実施期間：令和7年7月18日(金)～8月18日(月)

○対象者：子育て世代

○回答数：5,533件

○調査項目：

- 1.公共交通機関等における困りごとと要望
- 2.子ども連れや妊婦の利用に配慮されていると感じた取組
- 3.その他

※ 対象とする公共交通機関は、「鉄道・バス・タクシー・航空機・船舶」の5種類

※ 困りごとと要望は、「日常的な外出」と「旅行や帰省」に分けて質問

○調査結果：

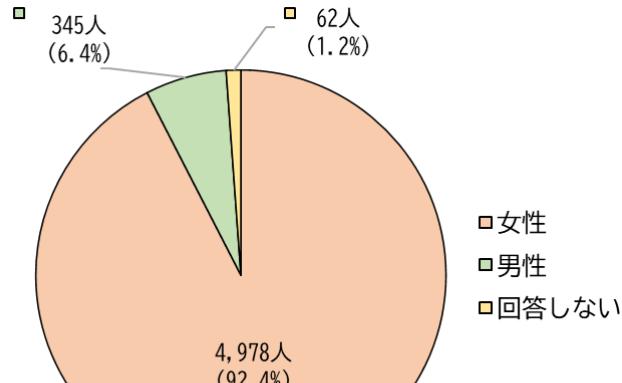
国土交通省HPにおいて公表

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree Tk_000379.html

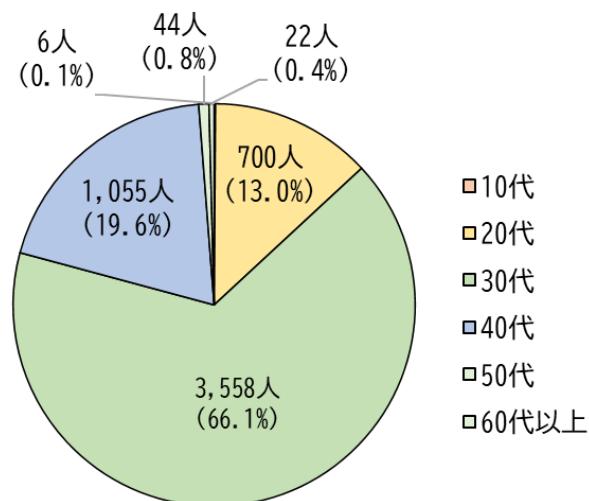


回答者の属性について

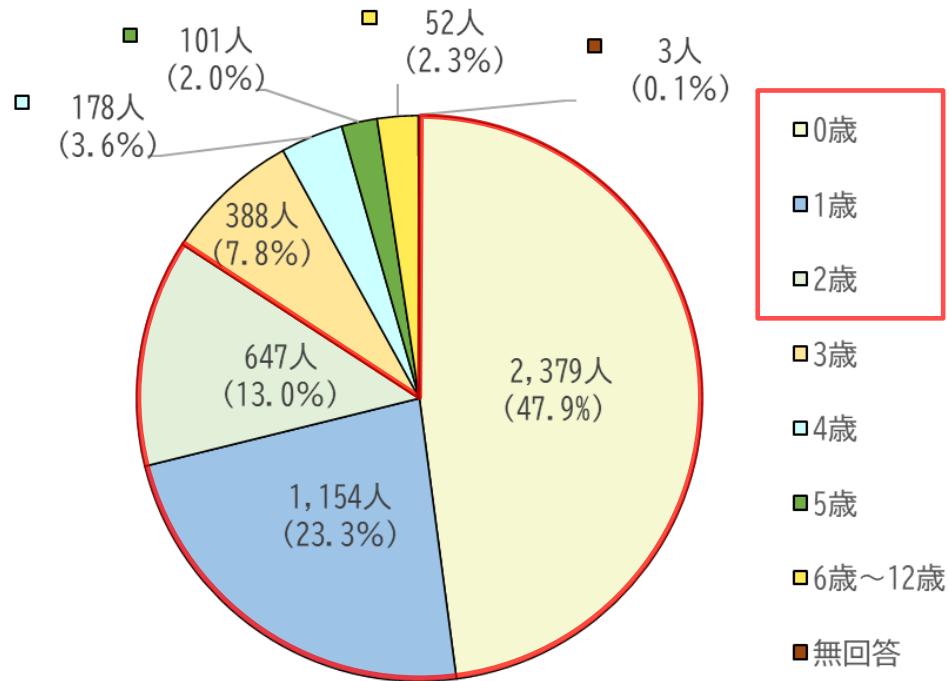
○ 性別 (n=5,385人)



○ 年代 (n=5,385人)



○ 末子の年齢 (n=4,963人)



アンケート回答者は9割以上が女性であった。
 また、末子の年齢は、1歳未満が47.9%で、2歳以下の合計とすると
全体の84.2%であり、1人だけで外出できない年齢の子どもがあり、外
 出時のベビーカー利用や、外出先で授乳室やエレベーターなどを必要とす
 る世代の割合が高くなっている。

- 他者の目線に対する心理的な負担や、駅や車内でこども連れの利用を円滑にするための設備・スペース（エレベーター・エスカレーター、授乳やオムツ替えのための設備、ベビーカー・荷物の置き場等）の不足、ホームの隙間に係る安全性の確保の困りごとの割合が高い。

＜鉄道における困りごと（複数選択可）＞

駅にエレベーター・エスカレーターがない、あるいは少ない

駅のエレベーターが、使いたい時に使えないことがある

駅に授乳やオムツ替えのための設備がない、あるいは少ない

ホーム、エレベーター、エスカレーターなど、駅の中にこどもにとって危険な場所がある

車両への乗車時、降車時、ドアの開閉などに危険を感じるときがある

ホームの隙間に危険を感じるときがある

他人の目線などが気になり、混雑時にこどもと一緒に利用しにくい

(◎) 混雑時にこどもと一緒に利用すると、危険を感じるときがある

周囲の人に冷ややかな目で見られたり、トラブルになったりすることがある

車内にベビーカーや荷物を置くためのスペースがない、あるいは少ない

(◎) 車内でプライバシーを確保できる空間がない（多目的室、個室など）

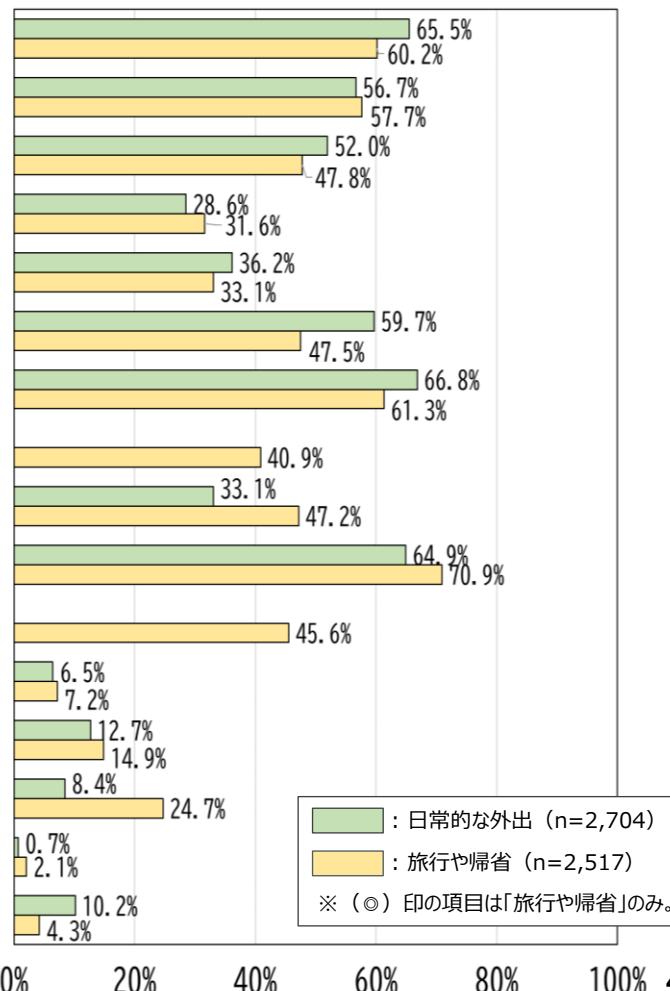
本来はこどもだけで利用させたいが、できない（不審者等への懸念も含む）

駅の係員に頼みごとや相談をしにくい

運賃が負担

特に困りごとではない、わからない

その他



鉄道における要望について

- 駅のエレベーター、授乳やオムツ替えのための設備、車内のベビーカーや荷物を置くためのスペース、混雑緩和、子連れ優先時間帯・車両の設定、周囲の人々への働きかけに関する要望の割合が高い。
- 旅行や帰省では、車内でのプライバシーの確保（個室など）に対する要望も一定数みられる。

＜鉄道における要望（複数選択可）＞

駅のエレベーターを、使いたい時に使えるようにする（増設、優先スペースの設置等）

駅に授乳やオムツ替えのための設備を設ける

駅のホーム、エレベーター、エスカレーターなど、子どもの視点からも安全対策を講じる

駅で子どもに必要なものが購入できる、借りられる（ベビーカー、オムツ、ミルクなど）

車両への乗車時、降車時、ドアの開閉などに、子どもの視点からも安全対策を講じる

混雑緩和や、子連れ優先時間帯・車両の設定

子どもが車内で退屈しない工夫がある

周囲の人が、子ども連れの利用に寛容になるような取組をする

車内にベビーカーや荷物を置くためのスペースを確保する

子ども用の手すりやシートを設ける

(◎) 車内でプライバシーを確保できる空間を確保する（多目的室、個室など）

子どもだけで利用する場合のサポート体制を整える

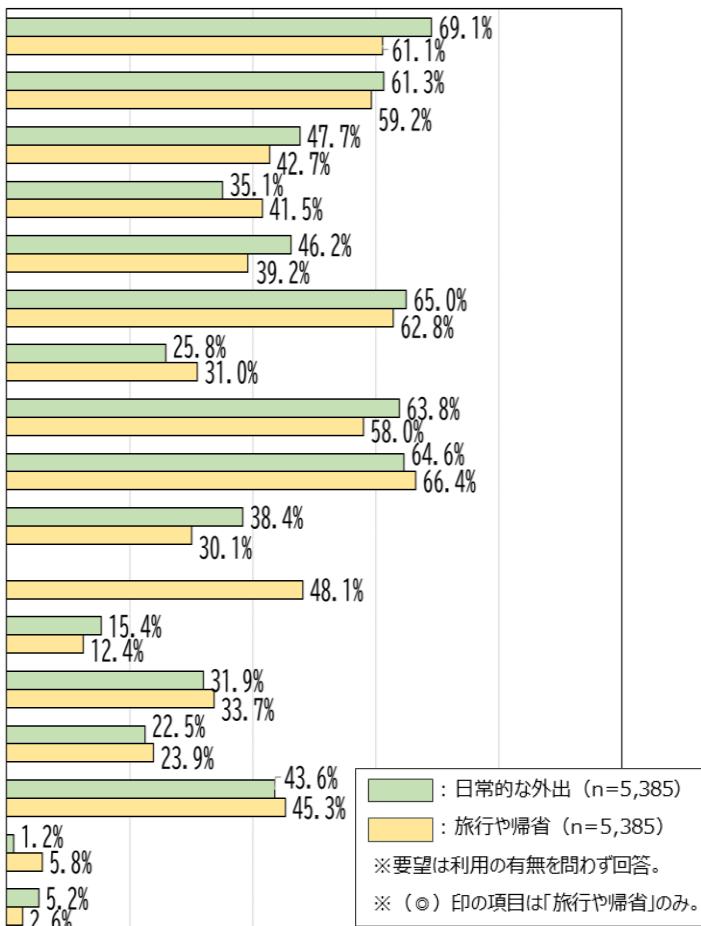
ベビーカー利用者や妊婦向けのサポートスタッフを配置する

駅の係員に頼みごとや相談をしやすい仕組みづくり

子育て世帯向けの割引やサービスを充実させる

特に要望はない、わからない

その他



バスにおける困りごとについて

- 車内空間の狭さやこれに起因する混雑時の利用のしにくさ、乗降口の段差の大きさなど、**バス車両の構造的な特性**に関する困りごとの割合が高い。また、鉄道と同様に、**他者の目線に対する心理的な負担**や**バスターミナルにおけるこども連れの利用を円滑にするための設備の不足**の困りごとの割合が高い。
- また、「**運転手に頼みごとや相談をしにくい**」の割合は、**他の公共交通機関等よりもやや高い**。

<バスにおける困りごと（複数選択可）>

- (◎) バスターミナルなどにエレベーター・エスカレーターがない、あるいは少ない
 (◎) バスターミナルなどのエレベーターが、使いたい時に使えないことがある
 バスターミナルなどに授乳やオムツ替えのための設備がない、あるいは少ない

- (◎) バス停周辺、エレベーター、エスカレーターなど、こどもにとって危険な場所がある
 バス停から車道に出てしまうなど、こどもにとって危険を感じる
 車両への乗車時、降車時、ドアの開閉などに危険を感じるときがある

バス停と乗降口との段差に危険を感じるときがある

他人の目線などが気になり、混雑時にこどもと一緒に利用しにくい

周囲の人に冷ややかな目で見られたり、トラブルになったりすることがある

車両のゆれ、運転手の運転操作や接客態度で不快な思いや怖い思いをすることがある

座席自体が狭く、こどもと一緒に座りづらい

車内にベビーカーや荷物を置くためのスペースがない、あるいは少ない

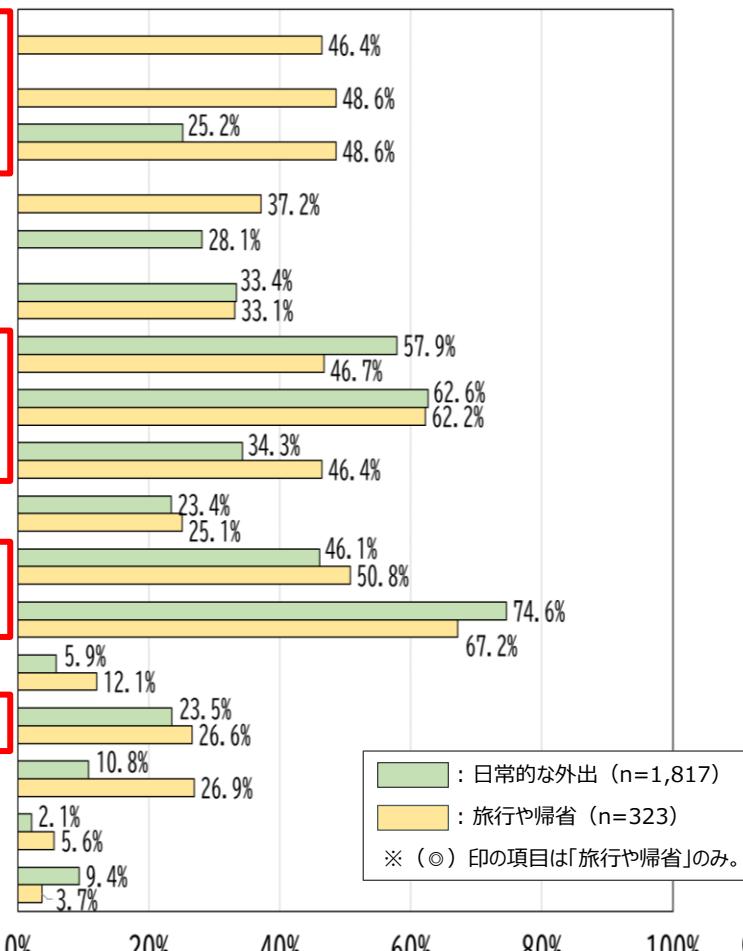
本来はこどもだけで利用させたいが、できない（不審者等への懸念も含む）

バスの運転手に頼みごとや相談をしにくい

運賃が負担

特に困りごとはない、わからない

その他



バスにおける要望について

- 混雑時の配慮や他者の寛容性の醸成、ベビーカーや荷物を置くためのスペースの確保、乗降時の安全性の向上に対する要望の割合が高い。その他、運転手に妊婦やこども連れの利用に寛容になるような取組をすることの要望の割合も高い。

＜バスにおける要望（複数選択可）＞

バスターミナルなどのエレベーターを、使いたい時に使えるようにする（増設、優先スペースの設置等）

バスターミナルなどに授乳やオムツ替えのための設備を設ける

エレベーター、エスカレーターをはじめ、バス停やバスターミナルで子どもの視点からも安全対策を講じる

バスターミナルで、子どもに必要なものを購入できる、借りられる（ベビーカー、オムツ、ミルクなど）

車両への乗車時、降車時、ドアの開閉などに、子どもの視点からも安全対策を講じる

混雑時であっても、子どもと一緒に気兼ねなく利用できるようにする

子どもが車内で退屈しない工夫がある

周囲の人が、子ども連れの利用に寛容になるような取組をする

車内にベビーカーや荷物を置くためのスペースを確保する

運転手に、妊婦や子ども連れの利用に寛容になるような取組をする

子ども用の手すりやシートを設ける

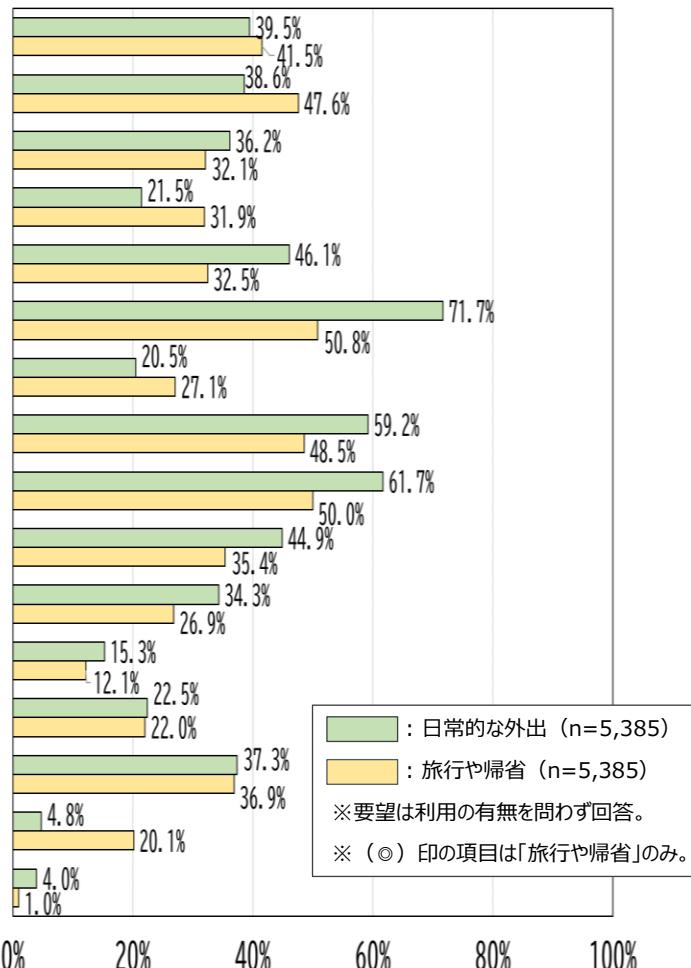
子どもだけで利用する場合のサポート体制が整っている

バスの運転手に頼みごとや相談をしやすい仕組みづくり

子育て世帯向けの割引やサービスを充実させる

特に要望はない、わからない

その他



- こども連れ等の利用に配慮されている取組として、鉄道では子育て向けのスペースの設置や車両の整備や、エレベーター待機レーンやベビーカーレンタルサービスの導入等について、バスではノンステップバスの整備や、運転手の乗降補助、ベビーカーで乗車可能である旨のポスターの掲載等が挙げられていた。

<こども連れや妊婦の利用に配慮されていると感じた取組（自由記述、n=980）>

モード	ハード面に関する取組の例	ソフト面に関する取組の例
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカースペースの配置 ・子育て向けの車両の整備 ・おむつ交換台の清潔化 ・ホームと車両の段差解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター待機レーンの区別 ・ベビーカーレンタルサービスの導入 ・妊婦等に対して配慮する旨のアナウンス
バス	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンドバスやノンステップバスの整備 ・ベビーカースペース及び固定ベルト 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手の乗降補助 ・ベビーカーで乗降可能である旨のポスター等の掲載 ・妊婦や子連れの運賃の低廉化
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイルドシートの搭載 ・天井が高いタクシーの整備（ベビーカーを置まずに乗車可能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦等向けタクシー ・子どもの1人利用への対応 ・運転手からの声掛けなどの接遇
航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・バシネット（赤ちゃん用の簡易ベッド）、チャイルドシートの整備 ・キッズスペースの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・客室乗務員の接遇 ・優先搭乗及び降機 ・子どもの1人利用への対応 ・機内でのおもちゃや本のプレゼント
船舶	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスペース・キッズルーム ・バリアフリー対応客室 	<ul style="list-style-type: none"> ・船内スタンプラリーの実施 ・船内でのベビー用品の販売

<取組例>



（東京都交通局）
子育て応援スペース

- 子育て世代が安心して外出先で授乳や搾乳（さく乳）※、トイレの利用ができる環境の整備を進めるため、令和7年1月から2月にかけて、**子育て世代を対象に、授乳室や子連れのトイレに関するアンケート調査を実施した。**

※ 出産後に赤ちゃんが入院した場合や、出産後に復職した場合などの様々な状況から自分で母乳を絞ること（搾乳）が必要となる場合がある。

調査の実施概要

- 調査方法：インターネット調査
○実施期間：令和7年1月27日(月)
～ 2月28日(金)

○対象者：子育て世代

○回答数：10,205件

○調査項目：

- ・外出先での授乳・搾乳について
- ・子連れのトイレ利用について
- ・その他

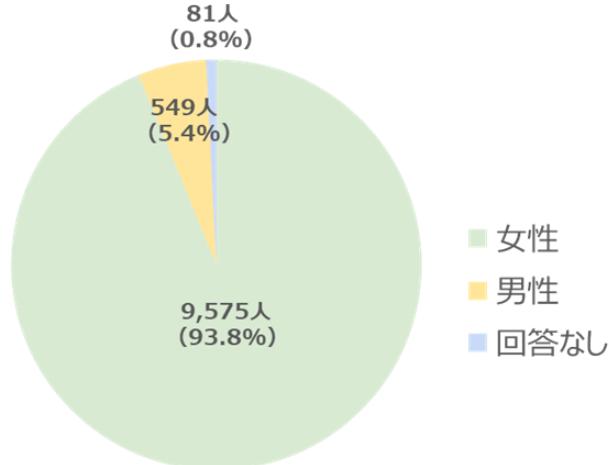
○調査結果：

国土交通省HPにおいて公表

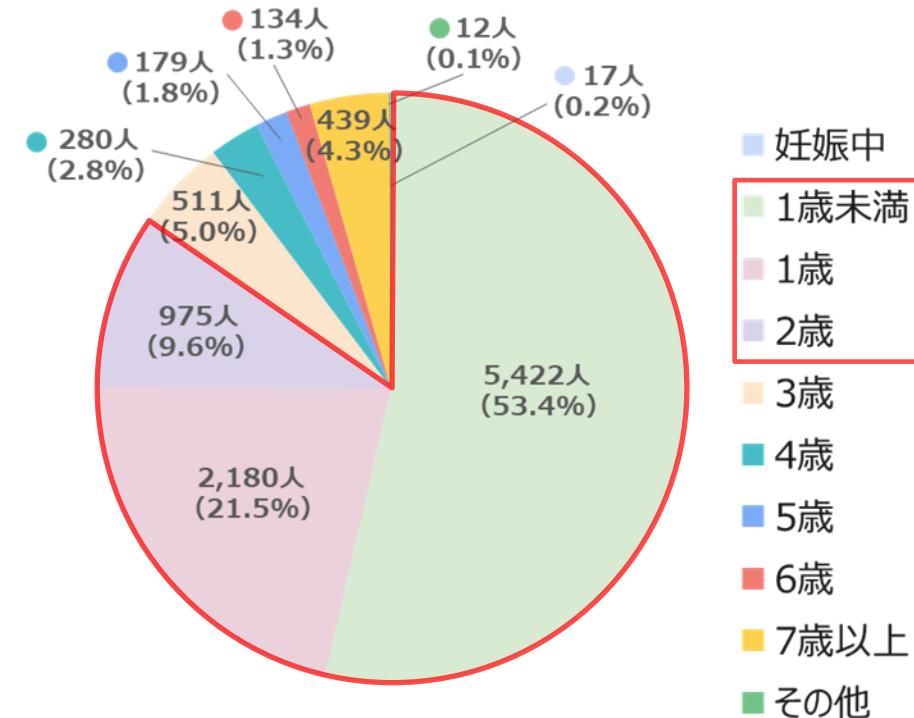
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_mn_000019.html



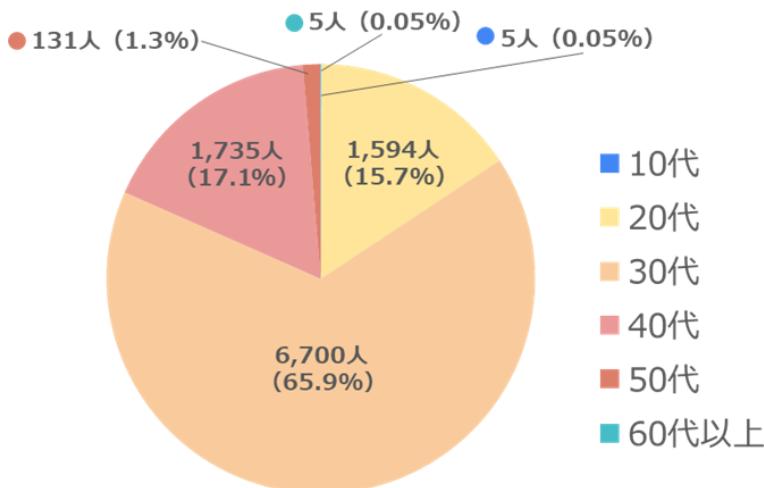
○ 性別 (n=10,205人)



○ 末子の年齢 (n=10,149人)



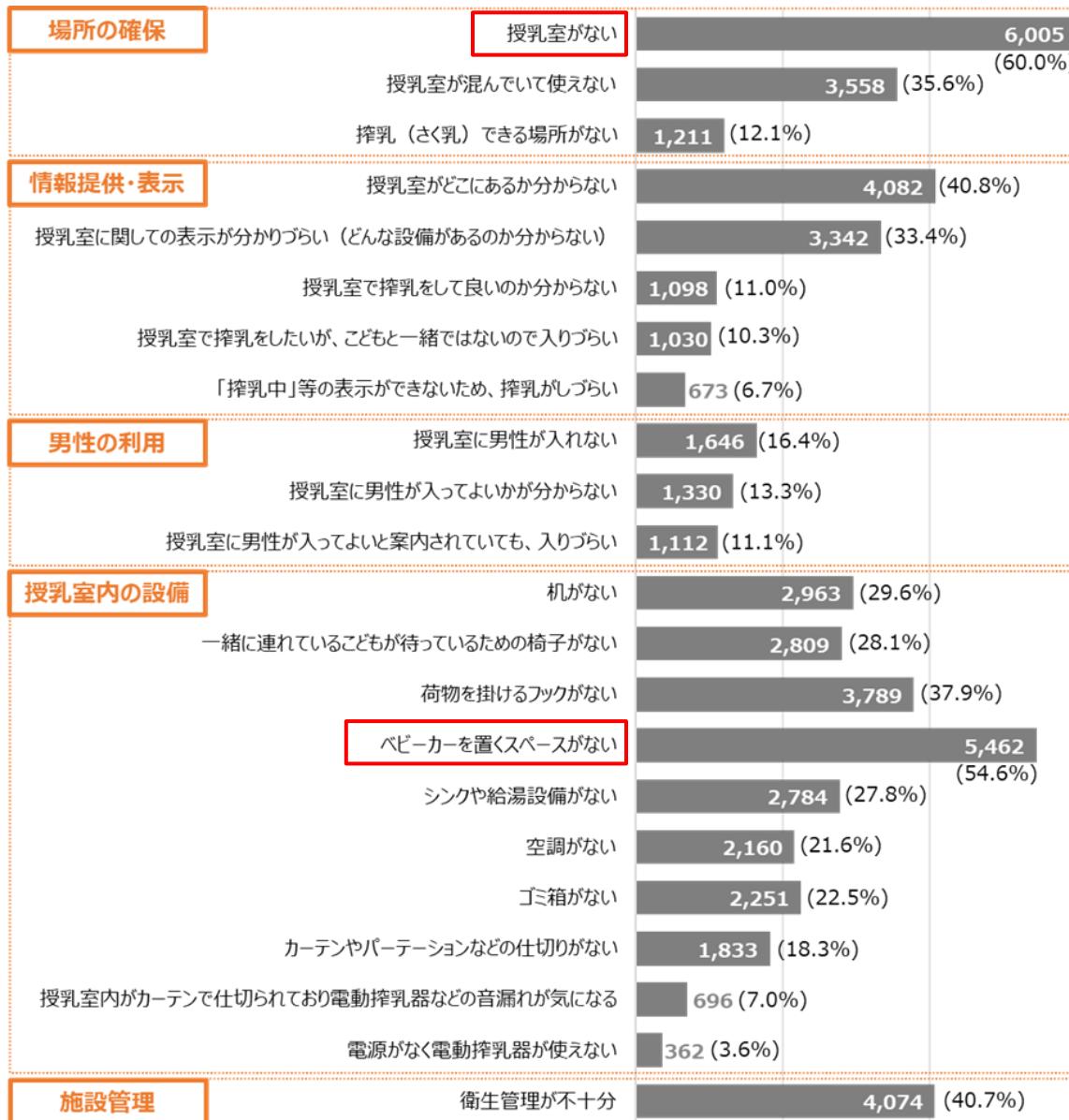
○ 年代 (n=10,170人)



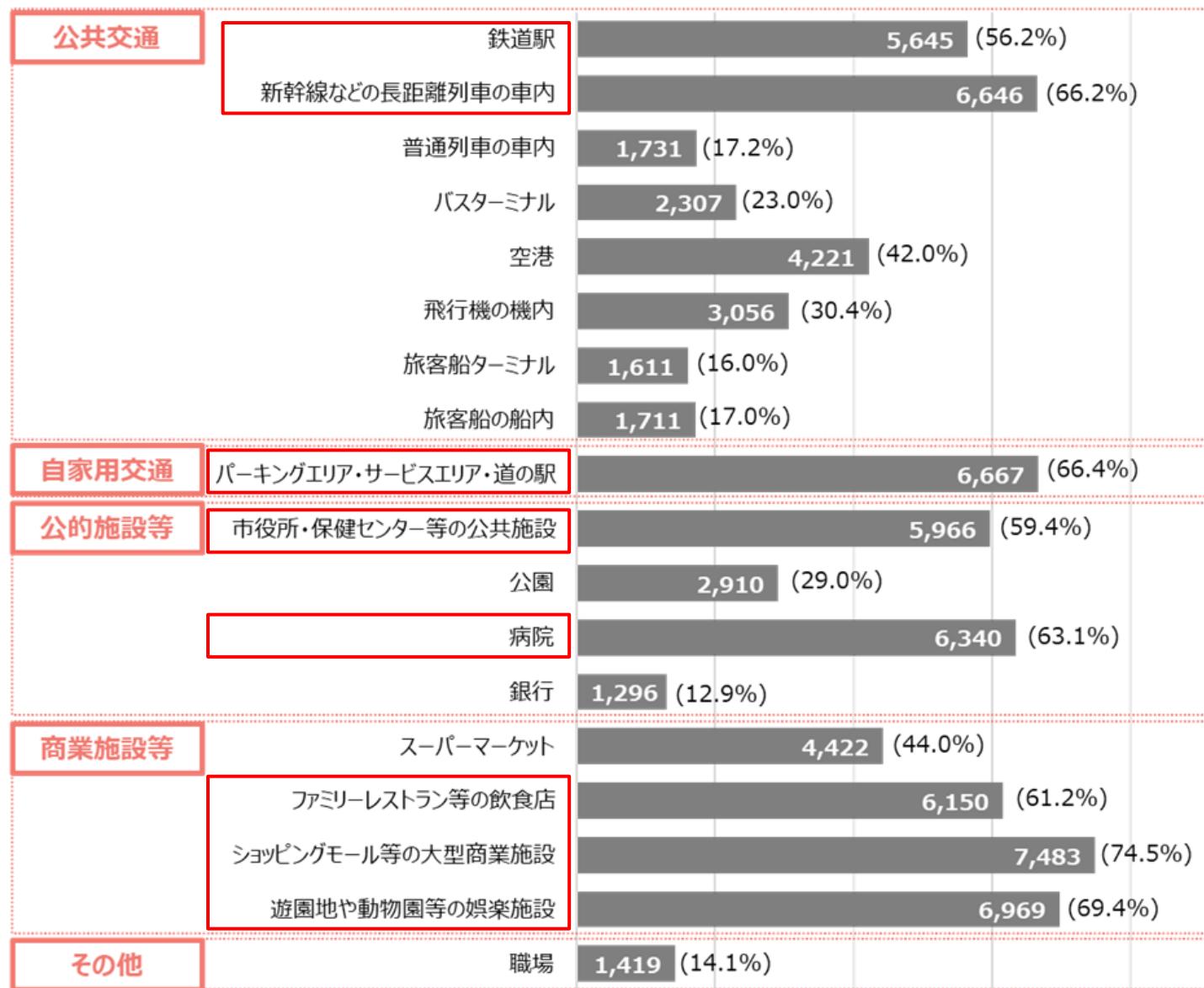
アンケート回答者は9割以上が女性であった。
 また、末子の年齢は、1歳未満が53.4%で、**2歳以下の合計**とすると
全体の84.5%であり、外出時のベビーカー利用や、外出先でおむつ交換台やベビーチェアを利用する必要がある世代の割合が高くなっている。

(参考)外出時の授乳や搾乳についての困りごと

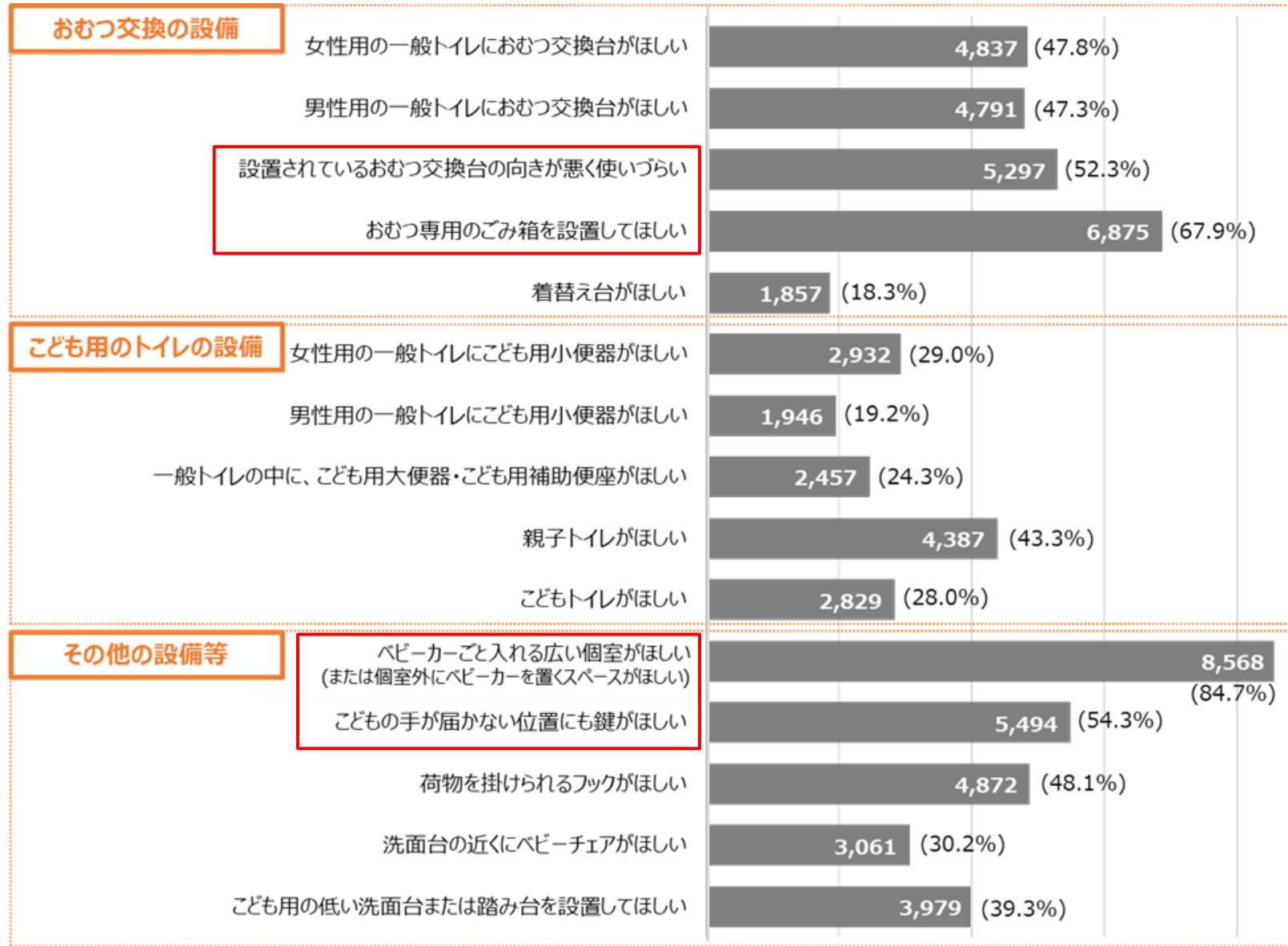
※ n=10,008人 (複数選択可)



※ n=10,044人 (複数選択可)



※ n=10,120人 (複数選択可)



※ n=10,085人 (複数選択可)

